

第2回氷見市立地適正化計画改定検討委員会

○日時 令和6年3月25日(月)午後2時30分～午後4時

○場所 氷見市役所201会議室

○出席 委員8名、事務局7名

○次第

1. 挨拶
2. 前回会議の意見対応
3. 計画改定案の主な内容
4. 質疑応答および意見交換
5. 事務連絡(今後の予定)

○配布資料

- ・資料1 説明資料
- ・資料2 計画改定素案

—出席者名簿—

| 区分 | 所属・役職 | 氏名 | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|--------|----|
| 学識者 | 富山大学 都市デザイン学部 教授 | 本田 豊 | |
| | 富山大学 都市デザイン学部 准教授 | 井ノ口 宗成 | |
| 関係機関 又は 団体の代表 者等 | 氷見建設業協会 事務局長 | 表 良広 | |
| | 富山県建築士会 女性委員会 | 大門 益子 | |
| | 自治振興委員連合会 朝日丘地区 | 林 茂之 | |
| | // 東地区 | 大嶋 充 | 欠席 |
| | // 加納地区 | 大谷 良和 | |
| | // 窪地区 | 西川 三郎 | |
| 行政機関 | 富山県高岡土木センター氷見土木事務所 所長 | 高嶋 康 | |
| 事務局 | 氷見市建設部都市計画課 課長 | 高田 昌計 | |
| | // 主査 | 瀬戸 智徳 | |
| | // 主査 | 小林 壮嘉 | |
| | 氷見市建設部道路課 課長 | 堂田 正仁 | |
| | 氷見市企画政策部地域防災課 課長 | 中川 道郎 | |
| | 株式会社日本海コンサルタント | 眞島 俊光 | |
| | // | 上野 朋弥 | |

—議事概要—

1. 開会挨拶

(都市計画課 高田課長)

- ・本日はご多用のところ出席いただき、また、市政全般にご高配を賜り、お礼申し上げます。
- ・前回の検討委員会では、現行計画のフォローアップ、災害ハザードを確認し、計画改定の方
向性および施策イメージについて議論した。今回は、その議論を踏まえて計画改定素案を作
成したので、皆様にはそれぞれの専門的見識から、忌憚のないご意見、活発な議論をお願い
したい。

2. 議事

(事務局)

- ・資料により説明

(委員A)

- ・令和6年能登半島地震を踏まえて修正いただき、かなりよくまとまっている。気になる点と
して、資料2 P25の方針4において「行政・住民・事業者等が連携した避難体制の充実」と
あるが、復旧・復興においても住民との連携が欠かせない。この部分について、復旧・復興
体制の充実に向けた記載もあればよいだろう。
- ・資料1 P6のハザード区域一覧について、地震についての記載が難しいのは分かるが、実際
に発生したところなので、補注でもよいので記載してはどうか。

(事務局)

- ・1点目の復旧・復興との連携については、連携していく必要があると考えているが、復旧・
復興計画の方向性が出されていない段階であり、今後、具体的な内容が定まった段階でフォ
ローアップしていきたい。
- ・2点目の地震の記載については、資料2 P15にゆれやすさマップに記載しているところで、
ご指摘の点を追加したい。また、液状化などのエリアが指定できれば、具体的に記載してい
きたい。

(委員A)

- ・地震対策の内容が(方針2と方針4に)散りばめられているため、整理した方がよいだろう。

(委員長)

- ・対応できるものは反映してほしい。

(委員B)

- ・資料1 P16からの地域防災力の向上について、今回の地震では、初期は高台での避難で混乱、

その後は小学校などに避難したが、避難場所の収容能力や防災倉庫の備品が圧倒的に不足していた。また、避難所として過ごしにくい体育館が指定されており、快適に過ごせる環境整備もしてほしい。

- ・ブロック塀についても相当数が倒れて、自動車の通行の障害となっていた。行政として、耐震性の基準を設けて指導してはどうか。
- ・能登では多くの電柱が倒れたことを踏まえ、電線の地中化も検討していくべきだ。氷見市内で既に地中化しているところもあるが、徐々に広げることで災害に強い街づくりを進めてほしい。

(事務局)

- ・ブロック塀については建築基準法の基準があり、2 m以上のものは確認申請を受ける必要がある。2 m未満については、基準はあるが確認申請を受けなくてもよく、許可がないまま立っている状況である。
- ・無電柱化については有意な取り組みであり、電柱管理者と協議していきたい。
- ・避難場所については、従来の想定以上の避難者がおり、収容できないほどであった。元旦の夜の避難となり、氷見市としても初めての津波警報であったため、自動車での避難による渋滞の発生、徒歩での避難も隆起などでしづらい状況であった。
- ・氷見市では22の自主防災会があるため、避難訓練を充実しつつ、地震の再発などを想定して地域の避難場所についても考えていきたい。

(委員B)

- ・自主防災会の活動は重要であるが、全てのことへの対応は難しい。避難場所についても、学校以外の候補が限られ、例えばお寺も指定されているが、災害時の安全性に不安がある。そのため、行政で検討する余地があるだろう。
- ・目標に防災士の増加があるが、高齢な方ではなく、若い世代を増やしていければよい。

(事務局)

- ・現在120名の防災士がおり、防災士ネットワークを形成している。地区によって人数に偏りがあるのが課題で、資格取得に向けて毎年25名程度の方に助成金を出している。

(委員長)

- ・防災士の年齢構成はどうなっているか。

(事務局)

- ・若い方も資格取得に励んでおり、高齢者に偏っている印象ではない。

(委員C)

- ・資料内に、「住宅・建築物等の耐震化の促進」と「住宅・建築物の耐震化等の促進」の2つの表現があるため統一いただきたい。

(事務局)

- ・「住宅・建築物の耐震化等の促進」に統一する。

(委員長)

- ・計画書内で文言が統一されるように調整してほしい。

(委員長)

- ・地域防災計画の見直しはどうなっているか。

(事務局)

- ・氷見市では土砂災害に注力した計画内容となっていたが、今回の地震を踏まえて、令和6年度以降にしっかりと見直しを進めていきたい。

(委員長)

- ・委員Bからの指摘をぜひ反映いただきたい。
- ・本計画には地域防災計画との兼ね合いの部分もあるが、スケジュール的にはどうか。

(事務局)

- ・地域防災計画の改定は令和6年度以降となる予定。本計画の策定期間と差がある。

(委員A)

- ・地域防災計画の改定期間は、防災会議の都合で年度末になることが多いのではないかと。

(事務局)

- ・令和5年は5月に防災会議を実施している。従来は国・県の見直しを踏まえて改定しており、地震の内容検討にあたっては県の動向をしっかりと見ながら検討していきたい。

(委員C)

- ・地震で策定スケジュールに影響があったが、どのように進めていくのか。

(事務局)

- ・資料により説明
- ・来年度の国土交通省協議の時期は概ね変えず、それまでのスケジュールを調整している。

(委員A)

- ・「令和6年度能登半島地震」といった誤表記や言葉の揺れについて、十分に確認してほしい。
- ・「多様で柔軟な市街地整備」について具体的に分かりやすく記載した方がよいだろう。

(事務局)

- ・適切に表現を修正するとともに、市街地整備について具体的に表記を検討したい。

(委員長)

- ・今後パブリックコメントを実施に向け、本日の意見を踏まえて修正した素案を委員長で確認し、実施する流れでよいか。

※一同了承

(事務局)

- ・次回は、パブリックコメント等を踏まえ、6月上旬に行う予定である。日程が近づいた段階で連絡させていただく。

3. 閉会

【会議の様子】

